

プリオン病の二次感染リスク者の フォローアップに関する研究

研究分担者：東京大学医学部附属病院 齊藤延人

手術器具等を介した、プリオン病の二次感染リスクに関して調査するため、
CJDインシデント委員会として活動。

インシデント事例フォロー状況

事例	CJD診断時期	告知対象者	事例	CJD診断時期	告知対象者
1	平成16年6月	11名	12	平成24年2月	58名
2	平成16年8月	10名	13	平成24年5月	5名
3	平成17年10月	12名	14	平成26年月	15名
4	平成18年10月	7名	15	平成27年1月	27名
5	平成18年9月	0名	16	平成26年12月	23名
6	平成13年6月	2名	17	平成27年9月	10名
7	平成15年3月	22名	18	平成30年10月	20名
8	平成18年3月	21名	19	令和元年6月	10名
9	平成20年1月	5名	20	令和2年2月	8名
10	平成21年7月	50名	21	令和5年10月	20名
11	平成23年9月	60名	22	令和6年2月	3名

解 説

1. 令和5年～6年は新規インシデント事案が2例あり随時調査を行った。
2. これまでに22事例がフォローアップの対象となっている。このうち令和6年度末までに14事例の10年間のフォローアップ期間が終了している。これまでのところ、二次感染の発生はない。
3. 令和6年3月1日と令和6年10月23日にインシデント事例の訪問調査を行い、インシデント事例における治療実態を詳細に把握した。それぞれインシデントにいたる過程の実態把握とその後の実態把握のための協力依頼及び啓蒙活動を行った。